

【専門基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	臨床運動学						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	演習 実習						

授業概要

正常運動が困難な人体を機能と運動 動作の観点から分析し、理解を深める学修します。

学修到達目標

1. 臨床における姿勢・動作分析のメカニズムの分析の必要性を理解し、述べることができる。
2. 基本動作のメカニズムを阻害する要因を分析し述べることができる。
3. 疾患特性による姿勢・動作の特徴と阻害要因を分析し、述べることができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 臨床における姿勢・動作分析の目的・メカニズム分析とは |
| 第2回 | 動作障害に関与する機能障害 |
| 第3回 | 基本動作のメカニズムと阻害する要因① |
| 第4回 | 基本動作のメカニズムと阻害する要因① |
| 第5回 | 基本動作のメカニズムと阻害する要因① |
| 第6回 | 歩行のメカニズムと阻害する要因① |
| 第7回 | 歩行のメカニズムと阻害する要因① |
| 第8回 | 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 運動器疾患① |
| 第9回 | 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 運動器疾患② |
| 第10回 | 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 運動器疾患③ |
| 第11回 | 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 中枢神経疾患① |
| 第12回 | 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 中枢神経疾患② |
| 第13回 | 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 中枢神経疾患③ |
| 第14回 | 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 中枢神経疾患④ |
| 第15回 | 臨床運動分析 まとめ |

評価方法

課題レポート

教科書

動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 (メジカルビュー社)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

正常の基本動作のメカニズムが基本となりますので、運動学、バイオメカニクス論など運動、動作について復習して下さい。

【専門基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	栄養学						
担当講師	高橋静恵						
実務経験の概要	管理栄養士 医療施設において実務経験を持つ						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

栄養管理の必要性、リハビリテーション栄養について学習します。

学修到達目標

基本的な栄養、リハビリテーション栄養の知識の習得。
リハビリテーション栄養の実践へ向けての検討ができる。

授 業 計 画

第1回	リハビリテーションに必要な栄養学
第2回	栄養素の役割
第3回	リハビリテーション栄養(リハ栄養アセスメント・診断推論)
第4回	〃 (リハ栄養診断)
第5回	〃 (リハ栄養ゴール設定、リハ栄養介入)
第6回	〃 (リハ栄養モニタリング)
第7回	〃 (応用・疾患別)
第8回	〃 (応用・疾患別)
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

評価方法

筆記試験

教科書

リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版) 必要に応じて資料配付

参考図書・文献

PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養(医歯薬出版) リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

栄養管理とリハビリテーションの関連について学習します。改めて毎日の食事(栄養)の大切さを考えてみて下さい。

【専門基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	摂食嚥下学						
担当講師	阿部信之 戸来幸恵						
実務経験の概要	阿部信之 : 言語聴覚士 一般病棟、回復病棟、療養病棟での言語聴覚療法(成人領域)の実務経験を有する。 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義/実技						

授業概要

摂食嚥下障害に対する基礎から応用の理解を深め、理学療法士が可能な治療との関係を理解できるよう学習する。

学修到達目標

1. 摂食嚥下についての解剖・生理について理解できる。
2. 嚥下障害患者へのアプローチについて理解できる。
3. 嚥下障害患者への他職種による連携を理解できる。
4. 食事場面での姿勢調整について理解できる。

授 業 計 画

第1回	摂食嚥下障害の総論、摂食嚥下障害の解剖	阿部信之
第2回	摂食嚥下障害の生理①	阿部信之
第3回	摂食嚥下障害の生理②	阿部信之
第4回	摂食嚥下障害への介入	阿部信之
第5回	摂食嚥下障害患者の栄養、チームアプローチ	阿部信之
第6回	摂食嚥下障害の原因・症状・合併症・悪化誘因	戸来幸恵
第7回	良好な嚥下機能を引き出すポジショニングと援助のポイント	戸来幸恵
第8回	事例検討	戸来幸恵
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

評価方法

筆記試験

教科書

必要に応じて資料配布

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

他職種連携論の言語聴覚部門と解剖学、生理学の復習を行って講義に臨んで下さい。(阿部)
解剖学、生理学の復習を行って講義に臨んでください。(戸来)

【専門基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	薬理学						
担当講師	Arif Ul Hasan 小原 真美						
実務経験の概要	Arif Ul Hasan : 医師 病院にて、医師として実務経験を有する。 小原 真美 : 薬剤師 病院にて、薬剤師として実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

投薬治療の必要性と各種薬剤の効果や副作用、リハビリテーション実施時に見られる薬剤の相互作用、薬理学からみたリハビリテーションにおける薬剤に関する注意事項などについて理解する。

学修到達目標

1. 薬物の種類、特徴、作用機序を説明できる。薬物に対する生体の反応を説明できる。病態とその薬物治療を説明できる。
2. 薬物の相互作用や薬物動態を説明できる。服薬の基本、コンプライアンスを説明できる。

授 業 計 画

第1回	薬の作用様式と作用機序	小原 真美
第2回	薬物動態	小原 真美
第3回	自立神経	小原 真美
第4回	呼吸器作用薬（COPD、誤嚥性肺炎など）、感染症	Arif Ul Hasan
第5回	消化器作用薬	Arif Ul Hasan
第6回	鎮痛・抗炎症薬と麻薬、抗アレルギー薬	小原 真美
第7回	代謝治療薬（糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症治療薬）	Arif Ul Hasan
第8回	利尿剤、泌尿器作用薬	小原 真美
第9回	循環器疾患関連治療薬	Arif Ul Hasan
第10回	睡眠薬、抗不安薬、抗てんかん薬	小原 真美
第11回	脳血管疾患関連治療薬	Arif Ul Hasan
第12回	パーキンソン病・アルツハイマー病治療薬	Arif Ul Hasan
第13回	抗精神病薬、抗うつ薬、ADHD治療薬	小原 真美
第14回	抗悪性腫瘍薬	Arif Ul Hasan
第15回	フレイル、サルコペニア、ポリファーマシーなど	Arif Ul Hasan

評価方法

進級試験を100点満点として60点以上を合格とする。

教科書

「リハベシク 薬理学・臨床薬理学」 内山靖・藤井浩美・立石雅子 医歯薬出版株式会社 2020年

参考図書・文献

「機能・活動・参加とQOLを高めるリハビリテーション薬剤」 若林秀隆 じほう 2019年

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

復習として参考図書の使用を推奨。授業中に出题された問題については説明できるようにしておくこと。

【専門基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	多職種連携論Ⅱ						
担当講師	齊藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義・演習						

授業概要

主に演習を通して臨床現場における多職種連携の在り方や関わり方を学修します。

学修到達目標

1. 対象者の課題を理解し、他職種と共有することの重要性が理解できる。
2. 他職種と協働しながら、理学療法士の視点で課題の解決に向けて行動することの重要性が理解できる。

授 業 計 画

- 第1回 多職種の理解と多職種連携の在り方①（演習）
- 第2回 多職種の理解と多職種連携の在り方②（演習）
- 第3回 医療施設における多職種連携①（演習）
- 第4回 医療施設における多職種連携②（演習）
- 第5回 在宅における多職種連携①（演習）
- 第6回 在宅における多職種連携②（演習）
- 第7回 多職種連携における理学療法士の資質①（演習）
- 第8回 多職種連携における理学療法士の資質②（演習）
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

レポート課題

教科書

プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

多職種連携論Ⅰの内容を復習し、他職種の役割を理解した上で、講義に臨んで下さい。

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	社会保障論						
担当講師	伊藤 隆博						
実務経験の概要							
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

社会保障制度の意義、目的、制度内容を学ぶ。
理学療法士として知っておくべき制度について理解する。

学修到達目標

1. 社会保障制度の対象や制度の内容について理解する。
2. 社会保障制度と理学療法士の関わりについて理解する。
3. 医療保険や介護保険について患者に説明することができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 現代社会と社会保障 |
| 第2回 | 社会保障の概念・対象・理念 |
| 第3回 | 社会保険制度 (1) 医療保険制度の概要 |
| 第4回 | 社会保険制度 (1) 医療保険で提供されるサービス |
| 第5回 | 社会保険制度 (1) 医療保険と診療報酬① |
| 第6回 | 社会保険制度 (1) 医療保険と診療報酬② |
| 第7回 | 社会保険制度 (1) 医療保険と診療報酬③ |
| 第8回 | 社会保険制度 (1) 在宅医療を支える制度とサービス |
| 第9回 | 社会保険制度 (2) 介護保険制度の概要 |
| 第10回 | 社会保険制度 (2) 介護保険で提供されるサービス① |
| 第11回 | 社会保険制度 (2) 介護保険で提供されるサービス② |
| 第12回 | 社会保険制度 (3) 年金制度の概要 |
| 第13回 | 社会保険制度 (4) 労災保険制度と雇用保険制度の概要① |
| 第14回 | 社会保険制度 (4) 労災保険制度と雇用保険制度の概要② |
| 第15回 | 社会保険制度 (5) 生活保護制度の概要 |

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

必要に応じて事前学習用の資料を配布するので読み込んでおくこと。
講義毎に資料を配布する。講義前には前回講義資料の復習をしておくこと。

【専門基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	地域生活環境論						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義 演習						

授業概要

理学療法の対象となる人々が地域で生活するための生活環境の現状や課題を理解し、生活環境整備する過程を学びます。

学修到達目標

1. バリアフリー・ユニバーサルデザイン化による地域環境の現状と課題を述べることができる。
2. 社会制度と生活環境の関わりを述べるができる。
3. 生活環境の概念・評価・整備について理解し、演習で実践ができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 地域環境の現状 |
| 第2回 | 地域環境の調査と課題 演習① |
| 第3回 | 地域環境の調査と課題 演習② |
| 第4回 | 生活環境の概念(構成する要素、ICFとの関連 理学療法との関連性) |
| 第5回 | 社会制度と生活環境 |
| 第6回 | 生活環境の評価と整備の視点 |
| 第7回 | 生活環境の評価と整備 演習① |
| 第8回 | 生活環境の評価と整備 演習② |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |

評価方法

課題レポート

教科書

プリント教材

参考図書・文献

日常生活活動学テキスト(南江堂)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

自分を取り巻く社会や生活環境に興味をもって授業に臨んで下さい。